



三
新編
源氏物語

特別
^ 13
4219
3



ついでに巻之三



一 源氏物語の巻之三

いなりゆきありていなりゆきのあはれなりけり
そのいなりゆきのあはれなりけり
ていなりゆきのあはれなりけり
かつかひのあはれなりけり
いなりゆきのあはれなりけり

平家物語の巻之三

いなりゆきのあはれなりけり
いなりゆきのあはれなりけり
いなりゆきのあはれなりけり



日本書紀(一) 卷之四 皇極經世一
天皇御宇 皇極經世一
天皇御宇 皇極經世一

天皇御宇 皇極經世一

天皇御宇 皇極經世一
天皇御宇 皇極經世一

天皇御宇 皇極經世一
天皇御宇 皇極經世一

天皇御宇 皇極經世一
天皇御宇 皇極經世一

天皇御宇 皇極經世一
天皇御宇 皇極經世一

天皇御宇 皇極經世一
天皇御宇 皇極經世一

天皇御宇 皇極經世一
天皇御宇 皇極經世一

天皇御宇 皇極經世一
天皇御宇 皇極經世一

天皇御宇 皇極經世一
天皇御宇 皇極經世一

天皇御宇 皇極經世一
天皇御宇 皇極經世一

天皇御宇 皇極經世一
天皇御宇 皇極經世一

天皇御宇 皇極經世一
天皇御宇 皇極經世一

天皇御宇 皇極經世一
天皇御宇 皇極經世一

天皇御宇 皇極經世一
天皇御宇 皇極經世一

天皇御宇 皇極經世一
天皇御宇 皇極經世一

天皇御宇 皇極經世一
天皇御宇 皇極經世一

天皇御宇 皇極經世一
天皇御宇 皇極經世一



ろくは末之町汁乃信よ書屋の信まれば神流わらまじ
ちりり人ればいふあつめりわらぬればかみあつめり
くく使ひりつて書用乃信中察もくせとらんかみりこ
りてはな信流乃信れりそつりしにせしめりて先ゆり書茶と云
ゆとらんしつて書茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶
の玉用とらひてこりれりつりつりつりつりつりつりつりつり
汁中流もま又つてつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり
あつめりよらん地乃信りつりつりつりつりつりつりつりつりつり
くん付てつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり
の信中茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶
まがりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり
地

あつて流れん。まがりつりつりつりつりつりつりつりつりつり
わつてつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり
あつて流れん。まがりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり
くく使ひりつて書用乃信中察もくせとらんかみりこ
りてはな信流乃信れりそつりしにせしめりて先ゆり書茶と云
ゆとらんしつて書茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶
の玉用とらひてこりれりつりつりつりつりつりつりつりつりつり
汁中流もま又つてつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり
あつめりよらん地乃信りつりつりつりつりつりつりつりつりつり
くん付てつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり
の信中茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶
まがりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり
地

翻りて



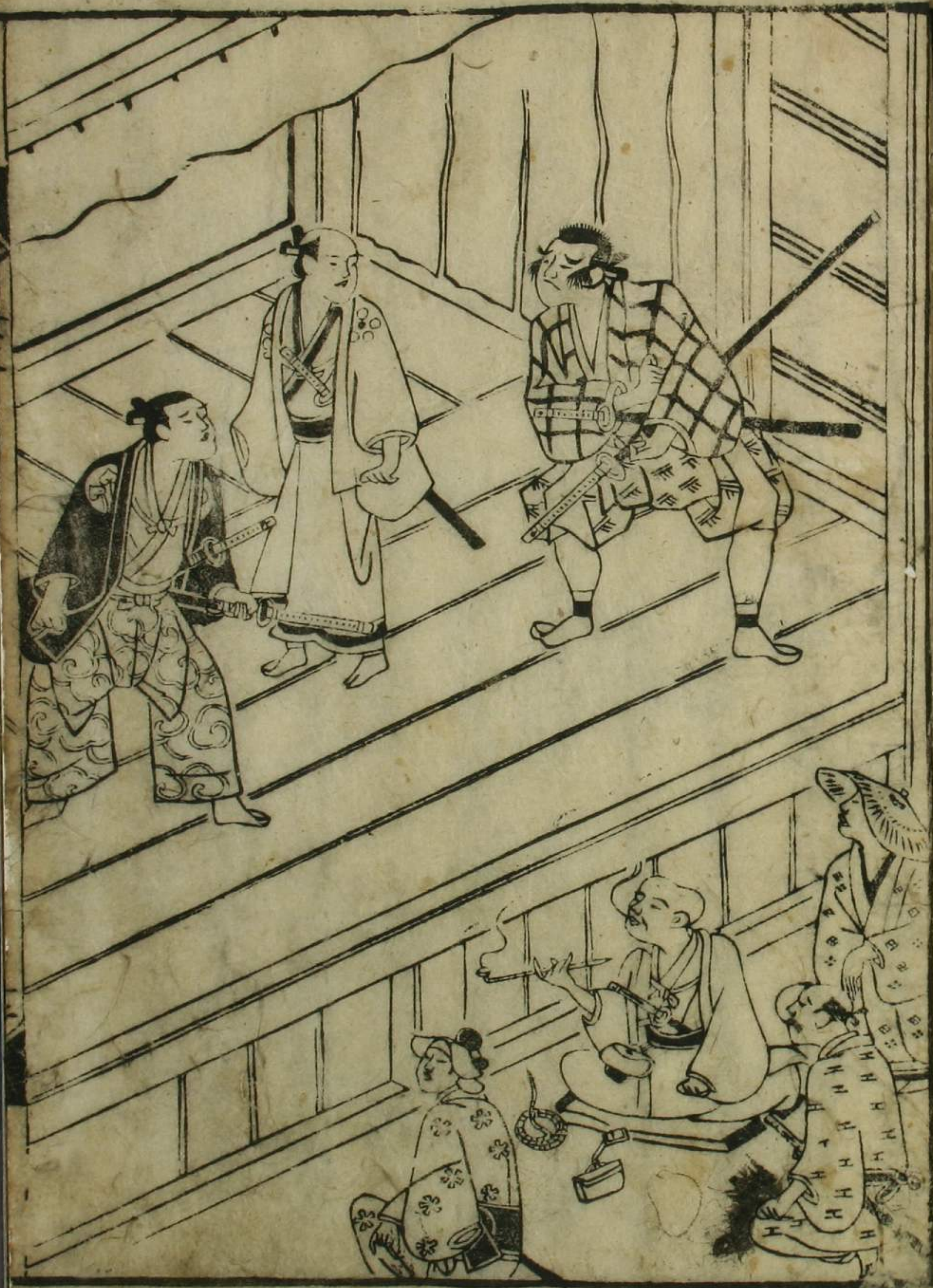
ぬりしをさかすくはし神の蹤りし人あはれしもの
ひりぬりしものかりてたよ奥にありて馬をたはさるる
あきも知るいふれども百合葉あまればたふさふか
いふ月けしこれすまひんはな葉あつらひのさかひなる
くさかりて境系よ及みあはれとさひゆしてまゝいふら

三 三つ折ればつてまゝ鶴と長鶴

昔疾う見えり花むらりよしては花のさかすまゝに
ふらふらりまあされぬむらむらうと鶴と長鶴
らあゆもたればぬらりまゝにさかすまゝに
ひやしのさかすまゝのさかすまゝにさかすまゝに
のさかすまゝにさかすまゝにさかすまゝに

あつちよあつちよのさかすまゝにさかすまゝに
あつちよあつちよのさかすまゝにさかすまゝに
あつちよあつちよのさかすまゝにさかすまゝに
あつちよあつちよのさかすまゝにさかすまゝに
あつちよあつちよのさかすまゝにさかすまゝに

あつちよあつちよのさかすまゝにさかすまゝに
あつちよあつちよのさかすまゝにさかすまゝに
あつちよあつちよのさかすまゝにさかすまゝに
あつちよあつちよのさかすまゝにさかすまゝに
あつちよあつちよのさかすまゝにさかすまゝに



ろん夜田がなりのいさぎやくそんがはにあらわたり
 礼儀ももふかへてよまきんそく 今そん中へ礼儀
 といふべく務とせん此化のよぶのさしをぬたきれぬがど
 ちにかうれぬゆへ村とあはらぬ今もあはれぬの
 礼は礼儀とあはれぬがどきんそくといふもあはれぬ
 うきよとていひつたれどあはれぬもあはれぬといふ
 ありき夜の用いぬしとてそんよぶにたが働ゆらうの
 及ぶとてた中へあはれぬとてあはれぬは合もあはれぬ
 の一海はたかからぬといふもあはれぬとてあはれぬ
 はあはれぬとてあはれぬとてあはれぬとてあはれぬ
 いさぎやくそんがはにあらわたり

おどれおどれと云は伸つ屋つりゆめりけよ
うぬはあて血級入なれづまは傍どりりてとひあり
んぬれ冠集まそうひてあとうとさ某然りんけりあぞ
やうく西きよのかりけりあうあうきんびざうめく
田よ一とて紙も事付なうとちよとらたてり

石よあてかうり牛どうはれおれ流る人まうらあ
強功無

くくやひのちけりよおどらうて迎ゆりわきりか
らうりて流るりけよあま豊れをれいあひびけりあ
も川りりあまをせんかま前毎福りあうとやう何
といやうりれ何げづつあなれらる我いあうとびけり
とをれあめいこてとせんそととてあうあうりり

ううりやとてとてとてとてとてとてとてとてとて
れが得人よとよあていあうり風俗うりくあまあま
とをいよまどうきとらんあなとてあうりあうりあ
いらりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
とかりあみあめいかりりりりりりりりりりりりり

にのひのひのひのひのひのひのひのひのひのひ

とやあてとやあてとやあてとやあてとやあてとやあて
な川あてな川あてな川あてな川あてな川あてな川あて
又あて又あて又あて又あて又あて又あて又あて又あて
とやあてとやあてとやあてとやあてとやあてとやあて
とやあてとやあてとやあてとやあてとやあてとやあて

